

乳がん高度検診・治療センター NEW一す NO. 12

2014.11

乳がんセンチネルリンパ節生検についての当院での工夫💡

センチネルリンパ節やセンチネルリンパ節生検のことをご存知でしょうか？

センチネルとは見張り役といった意味合いの言葉で、センチネルリンパ節とは、乳房にがんができたとき、がん細胞が最初にたどりつき転移を形成する脇の下のリンパ節のことです。脇の下のリンパ節に転移がなさそうな乳がんの手術では、このセンチネルリンパ節を手術中に取り出し(センチネルリンパ節生検)、がん転移の有無を手術中に顕微鏡検査で調べて、転移がなければそれ以上の脇の手術は行いません。リンパ節全部の摘出なしにすませることができれば手術後腕のむくみや違和感などの後遺症に悩まされることはほとんどありません。

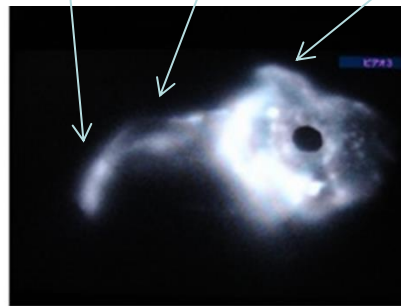
センチネルリンパ節生検の方法は、乳輪や腫瘍の周りに色素や微量の放射性同位元素(アイソトープ)を注射して、色素が集まるリンパ節や、放射能が検出されるリンパ節として見つかります。色素、アイソトープのいずれを用いるか、あるいは両者を併用するなど、方法は施設ごとにさまざまです。

当院では色素を用いる方法ですが、色素単独では見落としも危惧されますのでちょっとした工夫を加えています。すなわち、インドシアニングリーン(ICG)とパテントブルーという2種類の色素を混ぜて乳輪の下に注射するのですが、赤外線カメラ観察装置(PDEカメラ)を用いて赤外線を照射すると、ICGの流れにそったリンパ管やセンチネルリンパ節が蛍光を発生し、体外からの観察が可能となります(図)。この蛍光を頼りに皮下のリンパ管をたどり目的とするセンチネルリンパ節を見つけ出すものです。この方法(ICG蛍光法)により見落としの減少や、皮膚切開の位置決定などの有用性が確認されています。ICG蛍光法は実はわが国で独自に開発された画期的な方法ですが、当院では乳がんセンターの開設以来いち早く導入し、すでに約800例の経験を積んでいます。今までのところ99.6%ときわめて高率にセンチネルリンパ節の検出に成功しています。

センチネルリンパ節 リンパ管 乳輪(注射部位)



PDEカメラを用いた術中センチネルリンパ節生検



PDEカメラで捕えたリンパの流れ



KAZUKA

詳細は乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

